

# 久留米広域

●久留米市 ●田主丸町  
●北野町 ●城島町 ●三潴町

# 合併協議会だより

平成15年3月10日発行

Vol.2

発行・編集 / 久留米 広域合併協議会 〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3 TEL0942-30-9233 FAX0942-30-9703



▲会場を埋めた委員、議員、職員の皆さん。関心の高さを物語っています

◀協議会の役割について講演するアドバイザーの県地方課米倉秀之企画主幹

●協議会研修会を開催

各市・町の委員、議員、職員約180人が出席

久留米広域合併協議会では2月1日、協議会委員、各市町の議員や職員などを対象とした研修会を、久留米市庁舎で開催しました。研修会には、約180人が出席しました。

研修会では、最初に本協議会のアドバイザーである福岡県地方課合併支援室の米倉秀之企画主幹が「協議会及び委員の役割について」と題し、合併協議会での具体的な協議内容や委員の役割等を講演されました。

その後、合併先進市の長崎市広域行政室の小川泉主幹から、平成17年1月の合併をめざす長崎地域合併協議会（長崎市他6町で構成）での協議会運営の現状を通して課題解決手法などについてアドバイザーを受けました。

参加者は、新市の将来ビジョンを描く重要な協議会の役割や事務事業の調整の重要性、大切さの説明に熱心にメモをとられていました。

## 久留米広域合併協議会第2回会議

### 新市建設計画作成の基本方針を承認

久留米広域合併協議会第2回会議が2月28日、久留米商工会館で開催されました。同会議では本協議会会長選任などの報告のほか、新市建設計画作成の基本方針、14年度補正予算などを協議しました。

#### 江藤新会長が1市4町の

#### 枠組み尊重を改めて表明

第2回久留米広域合併協議会開催に

先立ち、江藤守國新会長が久留米市・田主丸町・北野町・城島町・三潞町の1市4町の枠組みを尊重するという基本的な考えで合併を進めていくことを改めて表明しました。

### 新市建設計画作成の基本方針

1. 新市建設計画は、久留米広域合併任意協議会において作成された「久留米広域合併に関する新市まちづくり構想」の内容を基本に踏まえて作成していくものとする。
2. 新市建設計画の対象とする期間は、「久留米広域合併に関する新市まちづくり構想」を踏まえ合併後10年間とする。
3. 計画は単にハード面の整備だけでなく、ソフト面にも配慮した計画とする。
4. 計画の内容は実現困難なものではなく、真に合併市町の建設に資する事業を選び、合理的で健全な行財政運営に裏付けられた計画とする。
5. 新市の速やかな一体性の確立を図るための推進基盤となる計画とする。
6. 新市建設計画がその実施を通じて地域全体のレベルアップを実現し、地域住民の生活水準・文化水準を高め地域の活性化に寄与する計画とする。

#### 報告事項

● 報告第4号・久留米広域合併協議会の会長の選任について

2月11日、本協議会の構成団体である1市4町の首長会議で江藤守國久留米市長を選任したことを報告しました。

● 報告第5号・第一回協議会以降の協議会活動について

研修会・専門部会合同発会式（2月1日）、1市4町首長会議（同11日）、第2回幹事会（同20日）、専門部会事務局説明会（同14日）、第1回新市建設計画策定会議（同17日）、事務局先進地調査（八代地域市町村合併協議会、長崎地域合併協議会、唐津・東松浦合併協議会）などを報告しました。

#### 協議事項

● 協議等に関する申し合わせについて

毎月1回の協議会開催  
・合併協定項目（新市建設計画を除く）は、慎重審議を行うため、まず項目内容の説明を行い、実質的な協議はその次の協議会で行うこととする  
などが承認されました。

● 第6号議案・新市建設計画作成の基本方針について

新市建設計画作成の基本方針（上記参照）について承認されました。

● 第7号議案・平成14年度久留米広域合併協議会補正予算（第1号）

新市建設計画作成支援等の追加に伴い、歳入・歳出それぞれ1,720万円増額する補正予算が承認されました。

## 久留米広域合併協議会ホームページを開設

<http://www.kttnet.co.jp/kurume-koiki-gappei/>

久留米広域合併協議会では2月21日、協議会の構成団体の紹介や合併に関する情報を提供する「久留米広域合併協議会ホームページ」を開設しました。

このホームページでは、これまでの合併に関する取り組みや本協議会の規約、合併によるメリット、合併についてのQ&A、用語集などを掲載しています。このほか、本協議会の会議の開催日時、議題についても紹介していきます。また、久留米市、田主

丸町、北野町、城島町、三潞町、の公式ホームページ、総務省の合併相談コーナーなどにもリンクしています。

なお、「なんでも！ご意見箱」を設けました。合併に対しての皆さんのご意見をお待ちしています。なお、このご意見箱にお寄せいただいたご意見・ご要望は、今後の協議に十分反映させていきたいと考えていますが、個別の回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。





## ●専門部会・各分科会も作業スタート

新市のまちづくりの基本方針や主要施策、行政サービスの水準などを専門的に協議・調整する久留米広域合併協議会専門部会の合同発会式が2月1日、久留米市庁舎でありました。同発会式には、久留米広域合併協議会構成団体の1市4町から、約100人の職員が参加しました。

専門部会として、総合調整部会、議会部会、総務部会、生活環境部会、保健福祉部会、都市産業部会、教育文化部会の7部会を設置しています。

また、各専門部会には、それぞれの分野ごとに詳細な協議調整を行うため新市建設計画策定会議、市民活動・自治分科会、税務分科会、高齢者福祉分科会、下水道分科会、農林水産業分科会、学校教育分科会など33の分科会を設けています。

今後、約1,500項目にのぼる事務事業の調整方針案づくりなどを行っていきます。

## ●各市・町の職員に説明

協議会事務局では、今後の事務作業の流れや専門部会・分科会での調整方針案作成などについて、各市・町職員を対象に説明会を行いました。(写真)2月21日、北野町役場での説明会



▲建設計画作成の基本方針などについて熱心な協議が進められた第2回協議会

### 主な質疑応答など(要約)

【質疑】合併協定項目等について、住民の意向、要望が反映される機会や場はあるのか。  
 【回答】協議会発たよりで協議内容を報告するほか、開設した久留米広域合併協議会のホームページに随時、協議会の会議録や合併協定項目および協議状況などの情報を掲載していきます。  
 ホームページには住民のみならずのご意見等をお受けする「なんでも!ご意見箱」もありますので、その中で、

合併に関するご意見、ご要望をお寄せいただければと考えています。  
 【質疑】合併の方式、合併の期日など大きな問題については、時間の制約もあると思うが、幹事会で案を作るのではなく、まず協議会で論議し、その内容を幹事会におろすような方法で決めるべきではないか。  
 【回答】合併協定項目の協議方法についてはいろいろ工夫して良いと思いますし、協議会で十分に論議していただきたいと考えています。その中には小委

員会を設置し、そこで論議する方法もごさいいます。  
 項目によって、協議会で協議すること、また幹事会で協議することの整理が必要と考えます。  
 【質疑】「建設計画作成の基本方針」の地域とはどこを指すのか。  
 【回答】各地域(エリア)を含めた新市全体を指します。  
 【要望】新市になるとまちづくりが画一的にならないか。地域の特性を伸ばすことが大切と思う。

## 合併用語解説

### ■新市建設計画

合併するにあたって、1市4町の住民に対して合併後の将来の姿を示す、いわば市町村合併によって新しく誕生するまちのマスタープランの役割を果たすものです。

この市町村建設計画は、合併後の様々な財政措置への基礎になりますので、非常に重要なものと位置付けられています。

### ■合併協定項目

合併する市町は、新市の行財政運営における特に重要な事項について確認のため合併協定書を作成します。この合併協定書に記載される項目が合併協定項目です。この合併協定項目は法的に定められているものではなく、地域事情等を勘案し、法定協議会で決定されます。合併特例法で作成が義務付けられている新市建設計画も合併協定項目の1つとして取り扱うことが一般的です。

#### (1) 基本的事項

①合併の方式 ②合併の期日 ③新市町村の名称など

#### (2) 合併特例法による協議事項

①議会議員の定数・任期の取扱い ②地方税(不均一課税)の取扱いなど

#### (3) その他必要な協議事項

多数の事務事業の中から住民への影響や政策的な要素を考慮しながら協議会が決定した事項。(例) 使用料・手数料、町名・字名の取扱い、高齢者福祉事業など

# ●わが市・町を紹介します

## ～ Introduction of Our Hometown ～

### 田主丸町

- 人口：21,532人（平成12年国勢調査）
- 世帯数：5,732世帯（同）
- 町域：50.99平方キロ

#### ■「楽しく生きる」が町名の由来

田主丸町は慶長19年（西暦1614年）、豪族菊池丹後入道の創建によるものといわれ、その地名の起こりは入道の往生観「楽しく生きる」から「たぬしまる」の名が生まれたと伝えられています。明治22年4月に市町村制の施行に伴う田主丸村と豊城村の合併により、田主丸町ができました。昭和29年12月には、町村合併促進法に基づき、田主丸町、船越村の一部、水分村、水縄村、筑陽村（川会村、柴刈村の合併）、竹野村が合併し現在に至っています。

田主丸町は、筑後平野の中心、北は筑後川の中流に位置し、南は東西に屏風状に連なる雄大な耳納連山（最高峰鷹取山標高802m）に接しています。東西に9.3km、南北に6.3km、総面積は50.99km<sup>2</sup>です。

地勢は、耳納連山を頂点に山麓からなだらかに筑後川の河岸に続いており、その間には、豊穡な筑後平野が広がり、水田耕種農業、苗木、植木、園芸など町の基幹産業が展開されています。

#### ■植木・苗木の生産は全国三大産地のひとつ

田主丸町は、植物の生育に恵まれた環境をいかした植木・苗木の生産が盛んです。その起源は約300年前の元禄年間に有馬藩が産業振興策としてハゼ、キリ、クワの苗栽培を奨励したことに始まります。植木苗木の生産では全国三大産地として知られています。このほか、巨峰や柿などのフルーツの生産も盛んで、シーズンには観光農園での巨峰狩りや柿狩りなどで毎年多くの観光客が訪れています。

また、河童（かっぱ）伝説が多く残されており、河童の町としても知られています。



フルーツの生産も盛ん。毎年シーズンになると多くの観光客でにぎわう観光農園

### 久留米市

- 人口：236,543人（平成12年国勢調査）
- 世帯数：88,777世帯（同）
- 市域：124.68平方キロ

#### ■産業・文化が交流する 水と緑の人間都市

久留米市は、明治22年4月、全国30市と共に市制を施行しました。以来、ゴム産業を中心に発展し、ブリヂストンや月星化成、アサヒコーポレーションなど日本を代表する企業が生まれました。

現在は新分野の産業の育成にも力を入れ、地場産業と先端産業が調和した魅力ある都市づくりを進めています。

また、久留米市は、文化を育て、多くの逸材を輩出してきました。特に青木繁、坂本繁二郎、古賀春江らが現代日本美術史に残した足跡は大きく、その数多くの作品が石橋文化センター内の石橋美術館に展示されています。

石橋文化センターは、ブリヂストンの創業者・石橋正二郎氏が昭和31年に建設し、市に寄贈した総合文化施設。美術館のほか文化ホールや市民図書館、日本庭園などがあり、芸術文化の拠点となっています。

#### ■世界各国からあつめた貴重なツツジを展示

市制100周年を記念して建設した「世界つつじセンター」では、世界各国から収集した貴重なツツジ類の保存育成、新品種の開発をしています。センター内には、約1,600品種21,000本のツツジが植えられ、春にはツツジ絵巻が繰り広げられます。

#### ■コクが自慢の久留米ラーメン

久留米ラーメンは、豚骨を煮込んでつくった白濁したスープの、独特の風味とコクが自慢であり、特徴です。九州ラーメンの元祖とも言われています。久留米市内には約70軒のラーメン店があり、その味を競っています。



久留米が生んだ不世出の画家・青木繁の作品などを展示する石橋美術館